

出会いから農業へ

高校を卒業して、地元の工場に就職しました。

その後、19歳の時に同じ地域で農業を営んでいた今の社長から声をかけていただいたことで、農業に取り組んでみようと思いました。今では、おいしいお米を食べてもらいたいという気持ちで、日々農業と向き合っています。

成長のために一歩ずつ

就農して1年目は、除草剤をまいたり、田植えのサポートをしたり、とにかく仕事をこなすことだけで精一杯でした。その中でも、日々の仕事の中で、幅広く視野を持つことが大切と学び、今でも心掛けています。

2、3年目からトラクターに乗せてもらい、現在は代掻きを任されていますが、カーブの操作や表面を均等にならすことは難しいので、今後は、ミリ単位の操作ができるよう腕を磨きたいです。

デジタルのサポート

私の会社では、従業員それぞれのスマートフォンから、耕作農地全体の地図や作業進捗が、共有できるシステムが導入されています。

特集1 米原の未来を変える若者たち“マイバラチェンジャー”

やま ね かず はや

農業を担う若い力 山根 一迅 (25)

米原のお米を全国へ届けたい

PROFILE 山根 一迅

農業者。平成9年8月生まれ。19歳の時、市の新規就農希望者等受入支援事業により、(有)ファームやまねに就職。米原のお米を全国の人にも食べてほしいとの思いで、日々、農作業に励む。

動画でも紹介!
市公式YouTubeチャンネル



伊吹山テレビ6月30日号

家

族や親戚、身近な人たちの「美味しい」が励み



米

原の人たちだけでなく
全国の人に米原のお米を
食べてほしい



技

術を磨き、幅広い機械を
運転し、活躍したい



▲山根さんの会社にある先端技術の直進アシスト機能付き
田植え機

作業をする時、全体の進捗がすぐに把握できるので、便利でありがたいなと感じています。

「美味しい」のために

美味しいお米を届けられたいなという思いで日々仕事に励んでいます。

農業は、四季が感じられ、いろいろな景色を見ることができるので、この魅力をもっと若い人たちにも知ってもらえたらと思います。